

研究は、あなたの未来を拓く

Research is for your future

Vol. 01

東京家政大学研究者紹介

Food Microbiology
食品微生物学



宮 聡子
MIYA Satoko

Nursing
看護学



倉石 佳織
KURAISHI Kaori

History of
Textiles & Clothing
服装史



沢尾 絵
SAWAO Kai

研究者たちが描く、
研究の原点と、
これから。

*My
Story Line*

刊行にあたって

これまで本学では研究者の研究活動の紹介を目的として、研究シーズをHPで公開してきましたが、その数も80件近くに達しております。ただ、このような形の紹介のみでは、一人ひとりの研究者がどのような思いで研究をしているのか、将来どのような展開を考えているのかなど、研究のリアルな実像をうかがうことは困難です。

そこで本年度は若手の研究者3名の方との対談を中心に「研究者紹介」の冊子を作製致しました。紙数の制約から、十分にお伝えできていない面もあるかと思いますが、ご容赦頂ければ幸いです。

本学ではまだまだ多数の研究者がそれぞれの研究を行っていますので、今後も引き続き紹介をしていきたいと考えています。



機構長

飯塚 堯介

MESHITSUKA Gyoosuke

元東京家政大学家政学部服飾美術学科教授、
東京大学名誉教授、日本学術会議20期・21期会員、
22期・23期連携会員。
専門/生物材料化学、バイオマス化学

RESEARCHER 01

研究者紹介



栄養学部 管理栄養学科 准教授

宮 聡子

MIYA Satoko

食中毒を防ぐ実践的な挑戦。 ニラや香辛料で守る「食の安全」

機構長 宮先生、本日はお忙しいところをこのインタビューに時間を割いて頂きまして有難うございます。私はヒューマンライフ支援機構の機構長をしております飯塚と申します。それでははじめに先生のご略歴について簡単にお願いします。

**法律から海洋、そして微生物の世界へ。
異色のキャリアが拓いた探究心**

宮先生 大学入学当初は法律の道を志し、法学部に進学しました。しかし、スキューバダイビングのサークルに所属したこともあり、「人が人の運命を左右できる」法律の世界よりも、「ありのままの真実を知る」自然科学の分野に強い関心を持つようになりました。卒業後は広告代理店に3年間勤務し留学資金を貯め、アメリカのサウスカロライナ州立大学マリンサイエンス学部へ入学しました。そこで履修した微生物学の授業が非常に興味深く、もと

もと関心のあった海洋学とも結びついたことから、帰国後は東京海洋大学食品微生物学研究室に進学し、修士・博士課程を修了しました。その後、同研究室で7年間研究を続けた後に他大学で新設された栄養系学部に着任し、5年間、微生物学や食品衛生学の教育に携わりました。現在は東京家政大学において、引き続き食中毒菌の研究を行っています。

機構長 本学で取り組まれている卒論や研究のテーマについて、簡単にご説明いただけますか。

**卒業研究は「食中毒を防ぐ」ための
実践的な挑戦**

宮先生 研究はすべて学部生の卒業研究として、学生と共に進めています。テーマも学生と相談しながら決めていますが、共通している

のは「食中毒を防ぐ」という大きな目的のもとに研究するという事です。1つ目は、野菜のニラが持つ抗菌作用に関する研究です。浅漬けは塩分濃度が低く、腸管出血性大腸菌 O157^{*1}などの食中毒菌が増殖しやすい食品です。そこで、ニラを利用して浅漬けによる食中毒を防ぐことを目的に研究を行いました。その結果、ニラの抽出液を浅漬けに添加すると、大腸菌の増殖が明らかに抑制されることが分かりました。さらに、その抽出液をレヨンシートに含ませてから乾燥させ、お弁当箱に入れる抗菌シートを作製したところ、これもまた食中毒予防に有効であることが確認されました。2つ目は、海水魚に付着している腸炎ビブリオ^{*2}という食中毒菌に関する研究です。お刺身などを介した食中毒が多く、特に中国などでは発生件数が非常に多いので、生魚を漬け込むマリネ液に香辛料などを添加することで、菌の増殖を抑制できないか検討しています。3つ目はカンピロバクター^{*3}です。この菌は鶏の腸の中に常在しているのですが、食品処理の過程で鶏肉が汚染されるということが問題になっています。この問題解決に向けた研究にも取り組んでいます。

機構長 教育・研究に加え、社会貢献や社会連携も大学の重要な使命だと思いますが、企業や他機関との共同研究は行っていますか。
宮先生 現時点では共同研究は行っておりませんが、過去には食品企業から依頼を受け、工場内に存在する菌の調査を行った経験があり、今後も機会があれば行っていききたいと思っております。

機構長 最後に、本学の在学生や、これから本学を目指すであろう高校生に対して、メッセージがございましたらお願いします。

ニラや香辛料の力で食中毒を防ぐ。
毎日の「食の安全」を、
科学的視点から守っています。

「研究」は特別なことじゃない。
自分の未来を拓く選択肢の一つ

宮先生 研究は本当に面白いものです。学部1・2年生に大学院という進路について話すと、多くの学生が「考えたことがなかった」と言います。大学院は特別に勉強ができる人だけが進む場所だと思われがちですが、決してそうではありません。

早い段階で研究室を選び、実際に研究に触れてみることで、その面白さに気づいてほしいと思っています。その上で、研究を続けたい

香辛料が菌の増殖を防ぐ。
研究は、暮らしを支える
「おいしい解決策」の宝庫ですね。

と感じた場合に、大学院という選択肢があることを知ってもらえればと思います。

令和7年度の学園祭では、栄養学部のポスター研究発表会を実施し、高校生や一般の方にも研究の面白さを伝える機会を設けました。「大変興味深かった」という声を多くいただき、研究は決して難しいものではないということを実感していただけたと思います。

本学では、大学院に進学しなくても、学部3年次後期から研究に参加することが可能で、4年次に学会発表を行う学生もいます。研究を通じて自分の進路が明確になることも多いので、大学選びの際には、ぜひ「研究」も一つの要素として考えていただければと思います。

機構長 在学生や本学を目指すであろう高校生にとってとても良いメッセージをいただきました。ありがとうございました。それではこれ为本日のインタビューを終えたいと思います。

Annotation

- ※1 腸管出血性大腸菌 O157：大腸菌の一種で、ペロ毒素という強い毒素を出し、激しい腹痛や出血を伴う下痢を引き起こす菌。
- ※2 腸炎ビブリオ：主に海水中に存在し、お刺身などの魚介類を通じて食中毒を引き起こす細菌。
- ※3 カンピロバクター：鶏などの家畜の腸の中にいる細菌。生に近い鶏肉を食べることなどで感染し、非常に多くの食中毒を引き起こしている。

みや さとこ

【担当科目】食品衛生学、
食品衛生学実験、HACCP
実践演習



めしつか ぎょうすけ

ヒューマンライフ支援機構
機構長



健康科学部 看護学科 講師

倉石 佳織

KURAIISHI Kaori

希少疾患の子どもと家族を支える、小児看護

機構長 倉石先生、まずはじめに先生のご略歴を簡単にご紹介ください。

英語教師から看護の世界へ。
人生の転機で見つけた「ケア」への想い

倉石先生 もともと教員を目指して教員免許を取得して教育学の大学院に進学し、高校の英語教員になりました。教員として働いている時に、家族が介護が必要な状況になり、私自身が介護を経験するなかで、健康障害のある人をケアする仕事に就きたいと思いを看護師になろうと思いました。看護学校に行き看護師の免許を取り、小児の専門病院や重症心身障害児の福祉施設などで働いて、いくつかの看護系大学勤務を経て、本学に着任しました。

機構長 本学で取り組まれている卒業論文の研究あるいはご自身の研究をご紹介します。

「その人らしさ」を支える。
家族と連携して取り組む看護のかたち

倉石先生 希少疾患^{*1}のコーエン症候群の子どもとその家族を対象とした看護支援の方法について研究で取り組んでいます。コーエン症候群は10万人に1人に発症するとてもまれな疾患です。全世界では約1,000人程度が診断されていると言われています。遺伝性疾患^{*2}で、症状としては眼の症状が課題で、視力が低下したりします。生まれながらの発達の遅れもあり、筋緊張が低下して、ミルクがうまく飲めないとか、呼吸が苦しいとか、歩行だとかがなかなか難しいです。さらに、肥満傾向になってきたりだとか、免疫をつかさどる好中球^{*3}が減っていく人が多いので、感染症状が重症化したりします。ただ、性格的には非常にフレンドリーな方が多いし、ちょっと自閉症^{*4}のようなところもあるけれども、いろんなことを真面目に取り組む性格もあるので、

地域とか生活の場では周囲から愛される存在だと聞いています。

機構長 先生のご専門を表現する時に、小児看護学って言葉が使われておりますね。

倉石先生 小児看護学では、子どもの時期だけでなく、子どもの将来を見据えて、その子がどういう風に大人になっていくかっていうことを考えて関わっていくことを大事にしています。コーエン症候群は、生まれた時から発症をしていますが、海外では60歳を迎える大人の方の症例もあります。そういう意味で、障害や病気をもちながら、どうやって生きていったらいいかを考える必要があります。それもただ生きるんじゃなくて、その人の持っている力だとか強みを活かしながら、その人らしくどう

やって社会生活を送ったらいいかと考えるとこころが大切かと思います。また、そのお子さんに対応することと同時に、その家族に対してもケアをしていく必要があります。コーエン症候群のお子さんの多くが、日常生活において両親をはじめ家族の支えを必要として生活しています。私の研究では、家族のなかでも母親にアプローチをしていこうかなと思っています。

機構長 コーエン症候群については、どれぐらいの数の研究者の人が今、日本におられて、情報交換なんかされているんですか。

倉石先生 患者数が非常に少ないこともあり、医師のなかで症例報告をされている方はおられません。看護分野では研究しているのは私だけだと思います。研究を通して、コーエン症候群を実際に診ていらっしゃる医師やリハビリを担当している方に出会い、情報交換をしています。また、コーエン症候群の方を多く診察している米国オハイオ州のクリニックを訪問し、医師や看護師と情報交換できたことも大きな収穫でした。

機構長 大学の使命として、教育、研究の他に社会貢献が挙げられていますかどのような取り組みをされていますか？

倉石先生 社会貢献という意味では、このコーエン症候群の患者・家族会と密に連携をさ

子どもと家族の声を聞き、
ともに歩む小児看護を
大切にしています。



くらし かおり

[担当科目] 小児看護学概論、小児看護方法論、小児看護の実践、看護研究II、統合実習など

せていただいております。研究者である私と、当事者である子どもと家族が、協力して研究を進めていく活動を行っています。その活動が評価されて、2023年に日本家族看護学会よりグッドプラクティス賞をいただきました。当事者の方々とのコミュニティを大切にしながら、この病気を知ってもらえるように発展させていくことが重要であると思います。

機構長 最後に、本学の大学生や今後本学を目指してくるであろう高校生に対して、何かメッセージをいただけますか。

五教科の先にある課題へ。

子どもと家族の「生涯」を支える看護

倉石先生 私自身が高校生の時は、英語とか国語とか、要するに主要五科目の成績だけにとらわれていたことがありましたが、実社会にはその五科目を超える課題があるっていうのに気づいてほしいと思います。なので、いろんなことに興味を持って、気の済むまで調べたりだとか、“考える”という挑戦をしてほしいなって思います。

本学には、「かせい森のクリニック」や「かせい森の産後ケアサロン」があり、子どもとその家族への看護とか、子どもと家族っていうところをキーワードとした支援や、それを学ぶ場としては、とても良い環境であると思っています。さらに、大学には「かせい森のおうち」とい

う保育園があるので、日中の子どもたちの散歩の様子とか見ると、子どもってこういうところに興味があるんだとか、こういう遊びしてるんだとかっていうのを身近で勉強できますので、子どもが好きな学生には適していると思います。小児看護学の領域のなかでも、私を含めて、健康な子どもたちのみならず、障害のある子どもたちも支えたいという思いが強い先生方ばかりですので、授業のなかですとか、実習のなかでも、障害のある子どもたち、そしてその家族っていうところに、ポイントを置いて教えていますので、そういうところに興味がある人たちにもお勧めかなと思っています。看護を志す学生には、様々な障害を抱えながら懸命に生きる子どもたちとその子どもを育てる家族もいることを知っていてほしいと思います。尚、卒業生の就職先は病院が多いですが、子どもの看護に携わりたい学生も結構おり、就職活動のサポートをしています。

機構長 本日は、貴重なお話をありがとうございました。

Annotation

- ※1 希少疾患：患者さんの数が非常に少なく、原因や治療法に関する研究が発展途上にある「まれな病気」のこと。
- ※2 遺伝性疾患：ゲノム・遺伝子の変化が原因となって生じる疾患の総称
- ※3 好中球：血液中にある白血球の一種。体に入ってきた細菌などと戦う「免疫」の役割を持っています。
- ※4 自閉症：コミュニケーションのとり方や、こだわりなどに独特のスタイルがある特性のこと。



家政学部 服飾美術学科 准教授

沢尾 絵
SAWAO Kai

伝統技術を未来へ。 染型紙データベースが拓く文化史

機構長 本日はインタビューをお受けいただき有難うございます。最初に、先生のご略歴、あるいはご専門について簡単にお話ください。

ゼミでの出会いが原点。

服飾史とともに歩んだキャリア

沢尾先生 日本女子大学被服学科3年生の時に所属ゼミを決めるという段階で、現在携わっている染織史・服飾史^{※1}ということを専門に扱う研究室に所属しました。そこからずっと日本服飾史や東洋染織史を中心にして教育・研究活動を続けています。

修士修了後は、大学の助手や中高家庭科の非常勤講師を経て博士課程に進学しました。その後も子育てをしながら研究を続けてきました。本学に着任したのは8年前になります。

機構長 次に、先生が本学で取り組まれております卒業研究ですとか、あるいは先生ご自

身の研究のテーマについて簡単にご紹介いただけますか。

デザインの宝庫「染型紙」。

失われゆく技術を記録する

沢尾先生 卒業研究はもう本当に多岐にわたると言いますか、今所属している服飾美術学科では、文化史を扱う教員が1人なので、日本、ヨーロッパ、アジアなどの全ての地域を対象に、学生が関心のある時代や事柄をテーマとして設定して研究に取り組んでいます。学生が興味のあるテーマがそのまま論文・研究として成り立つとは限らないため見極めが必要です。先行研究にはどのようなものがあるのか、どんな資料を調査し考えていくのか、ということも含め、テーマとして成り立つかどうかという研究以前の段階からです。ゼミの始まる3年生の後期から、少しずつ研究手法に馴染んでもらいながら、テーマを探してもらっ

て、希望する学生は4年次に卒業論文を執筆しています。

機構長 先生ご自身の研究にも、学生と一緒にやっておやりになっているような研究もあるのですか？

沢尾先生 学生によっては研究テーマが定まらない場合もありますので、私が取り組んでいる研究の一部を進める体験を通して、そこを起点に研究してもらうことはあります。卒論ではなく、専門ゼミⅡでしたら、こちらら必修ではないのですが、卒論は書かないけれども、より限られた範囲の資料調査などからレポートを仕上げるまでの研究を行う学生もいます。

私自身はもともとは、江戸時代前期、17世紀後半あたりの、これまで取り上げられていなかった文書から、服飾とか染織の当時の状況を探っていくというようなところに興味があって、博士論文もこの分野を行っていました。文化史研究ってもちろん本人にとって面白いのですが、本人がただ楽しめば良いかというと、大学に勤めて教育にも携わるという中で、何か今後につなげることがしたいと思うようになりました。文化史の研究そのものだけでなく、日本の文化関係のものというのは伝統産業^{※2}もそうですが、先細りし続けてきました。服飾文化史に携わる教員も今、他の大学も含めて本当に少ない状況です。ですから少しでも次につながるような視点が盛り込めて、

その土台になるような研究がないものかと思っていたところに、別で関わっていた研究プロジェクトの中で、1920-30年代の浴衣に着目して研究を行う機会を得ました。その浴衣を作る際に使用する染型紙が、ある企業様の手つかずの状態で見つかることを知りました。染型紙^{※3}は染織品そのものではありませんが、文様が彫ってありますのでデザインの宝庫です。型紙を作る技術も失われつつある現状を鑑み、染型紙を写真撮影してデータベース化することを始めました。調査しているところでは、染型紙が制作年代に分けて保存されているわけではありません。制作年が記入されていないものが多いのですが、データを蓄積していけば、糸掛けの手法や文様など見て、他の型紙と見比べて制作年代が推定できるものも出てくると思います。雑誌記事などとの比較も行っています。染織にかかわる伝統産業のこれからの、型紙を貴重な史料として模索していくというところにこの研究の特徴があると思います。これがやがて、何か文化的な貢献につながればうれしいです。

機構長 最後になりますけども。本学の大学生とか、あるいはこれから本学を受験しようと思っているような高校生に対して、先生から何かメッセージをいただきたいと思います。

興味の種類を大切に。

好きなことを極めた先に待つ豊かな学び

沢尾先生 先日、オープンキャンパスでもそのような質問を親御さんからいただいたのですが、やはり「好きを極める」というと、たいそうな雰囲気ではありますが、「好き・興味があるのなら続ける」ということでしょうか。途中、いろいろ障壁があったりとか、自分の中にも迷いがあったりとか、様々な段階があると思うのですが、好きなことを迷わず続けることが、色々な意味で自分にとっての学びにもなるし、ご褒美にもなるのではないかと。こういう形で今研究に携わったりすることができている

のも、それから研究を通じて、学生とのやり取りをすることも、私大好きですので、そういうことができているのも、好きなことを続けてきたからこそと思っています。ですから、「好きなことを見つけたらとことん頑固に続けてください」というのがメッセージですね。

機構長 とても参考になると思います。人に惑わされるのではなくて、自分の好きなことを頑固にですね。ありがとうございます。追加で申し訳ありませんが卒業生の進路について教えてください。

沢尾先生 教員になった学生もいますが、一般企業が多いでしょうか。他の研究室とあまり変わらないと思います。ただ、私の研究室に所属する学生は、縫うことよりも資料を見たり、歴史が好きとの理由で来ている学生も多いので、勉強が好きで多い学生が多いと思います。ですから、もの作りではない分野に就職していきます。

機構長 本日は、先生の研究分野についてお話いただきありがとうございました。

古い型紙はデザインの宝庫。
歴史の中に眠る美しさを、
未来へつなぐ土台を作っています。



Annotation

- ※1 染織史・服飾史：布を染めたり織ったりする技術や、衣服の形・流行が、歴史の中でどう変化してきたかを文化の視点から研究する学問。
- ※2 伝統産業：古くから受け継がれてきた技術や材料を使い、地域と密着して作られる工芸品などの産業。
- ※3 染型紙：浴衣や着物の生地柄を染める際、模様を彫り抜いて作った型紙のこと。

さわお かい

[担当科目] 日本服飾文化史、西洋服飾文化史、現代ファッション史、民族服飾論、ファッション文化論、博物館実習

家政大の研究シーズ／発明研究の紹介

研究シーズ (Seeds) とは、大学と企業、行政、地域等との産学連携、社会連携の「実」となり「芽」となる「種 (たね)」のことです。

本学では子どもから高齢者まで、人々の生活にかかわる多様でユニークな研究が行われています。それぞれの教員がどのような研究に取り組んでいるのか、その研究活動の一端を、「子どもと学び」、「食と栄養」、「健康とからだ」、「環境と暮らし」、「こころと表現」、「情報とコミュニケーション」をガイドに紹介しています。

また、本学教員による発明と研究概要についても紹介しています。

研究課題	動画	研究者名
天然ナノ材料を用いた布への消臭性等の機能付与		共創デザイン学部教授 濱田仁美
スタッフ不足を解消する質の高いリハビリテーションシステムの開発		健康科学部教授 磯直樹
減塩パンの製造方法の開発について		栄養学部教授 鍋谷浩志
ウィルス感染症の高感度・迅速検出		家政学部教授 池田壽文
肩可動域とシルエットを両立するセーラー服の開発		健康科学部講師 平田恵介

興味を持たれたシーズや発明研究がありましたら、産学連携推進グループ (orcc@tokyo-kasei.ac.jp) までお問合せください。



家政大の研究シーズ 発明研究の紹介

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構

Organization for Research and Community Cooperation

173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

TEL: 03-3961-5537

E-mail: orcc@tokyo-kasei.ac.jp

